

「川根本町子ども議会」を開催



11月29日(金)に光の森学園の6・8・9年生の代表者による「川根本町子ども議会」を開催しました。この取組は、次世代を担う子どもたちが川根本町の未来や日常生活について考え、主体的に考える力を育み「町づくり」に参画する意識を育てることを目的としています。当日は8人の生徒が「議員役」として町政に対する一般質問を行い、実際の議会同様に町長が答弁しました。また3人の生徒が「議長役」として議会の進行を担当しました。

子ども議会を終えて、議長を務めた感想

～3人の生徒が交互に議長を務めました～

議長としての体験を通じて、発言した生徒の熱意や川根本町をより良くしたいという思いが強く伝わってきました。生徒の意見や提案は、地域の未来を考える上で非常に重要であり、私自身もその一員として参加できたことを誇りに思います。とても貴重な体験となりました。



おおの しろう
大野 士朗
光の森学園9年生

議長としての貴重な体験をさせていただきました。この機会を通じて、普段は見ることでできない議会の運営や議論の進め方を学ぶことができ、とても嬉しく思います。社会の責任感や、地域の問題に対する関心が高まりました。この経験を、今後も大切にしていきたいです。



ながしま そら
長嶋 優空
光の森学園9年生

光の森学園の生徒たちの発表はユニークで面白く、特に議長としての体験を通じて、普段行われている議会の運営を身近に感じることができました。この貴重な体験は、私たちにとって議会の仕組みや重要性を理解する良い機会となり、今後の成長に繋がると感じました。



はしもと こうしん
橋本 煌心
光の森学園9年生



おおや たいよう
大矢 太陽
光の森学園6年生

No.2

**質 川根本町の人口減少を
問 食い止めるために**

川根本町の将来を考え、同年代の意見を集めたアンケート結果を基に、人口減少対策として以下の提案します。
施設整備、進路先の充実、大学誘致、子育て支援、移住者の呼び込みを進め、町の活性化を図ることができると考えます。

町長答弁要旨

川根本町では、買い物や医療の利便性向上に向けて、配送サービスや移動販売を導入しています。また、川根高校の魅力向上に努め、大学との連携を強化しています。子育て支援として、相談窓口や医療費無償化、育児用品購入券を提供し、安心して子育てできる環境を整備しています。移住促進のため、定住・移住推進室を設置し、補助金や移住フェアを通じて移住者を増やしています。町の温かさを活かし、自然環境を保ちながら人を呼び込む方針です。



もり そうた
森 奏太
光の森学園6年生

No.1

**質 川根本町とアニメ・ゲー
問 ムコラボ計画**

川根本町の町おこしに向け、アニメとのコラボを提案します。桃太郎電鉄とのコラボや町営バスのラッピングを通じて、町外・町内からの盛り上げを図り、ターゲットを観光客と町民に明確に設定することが重要と考えます。

町長答弁要旨

川根本町では、アニメとのコラボを通じて観光促進を進めています。大井川鐵道の「きかんしゃトーマス列車」や「ゆるキャン」との連携で観光客を呼び込み、スタンプラリーも実施中です。町営バスのラッピングには著作権問題があるものの、地域活性化に寄与する可能性があります。ロケ地マップを作成し、観光客の誘致を目指しています。全線復旧に向け、観光客の回復に努めます。

No.3

なかむら ゆうみ
中村 夕海
光の森学園 8年生



おおishi しょう
大石 翔
光の森学園 8年生



質問

100年前の文化を大切に

私たちは、100年前の川根本町を研究して、昔の写真と今の写真を比較することでいろいろな発見がありました。昔のことを知る人に話を聞いてより詳しく昔の川根本町を知ることが出来たため、以下の資料を活用することを提案します。

- (1)昔のことを学べる資料を大切にしてください。
- (2)川根本町の貴重な資料を町づくりに活用してほしい。

町長答弁要旨

大石議員、中村議員の歴史への関心を嬉しく思います。昔の資料は教育や文化継承に重要で、地域の歴史を学ぶ手助けとなります。子ども議会を通じて、子どもたちが地域の歴史に触れ、次世代に伝える責任感をもつことが期待されます。

町では資料のデジタル化を進め、アクセス環境を整えます。また、静岡文化芸術大学と協力し、貴重な資料の調査や町民との勉強会を実施するなど、地域への愛着や誇りを育む取組を行っています。

No.4

まつば らいと
松葉 來杜
光の森学園 9年生



かみなが そうた
神長 壮太
光の森学園 9年生



質問

ジビエで町を救おう
～ジビエを使った町おこし～

私たちは、ジビエの研究をするうちに非常に魅力的だと感じ、町おこしには、このことを使わない手はないと考えました。

- (1)実際に狩りをしている人の経験から魅力を伝える。 → SNSやYouTubeを使って伝える。
- (2)販売やジビエの魅力を伝える店を建てる。 → 日本川根中学校の土地を使って店を建てる。千頭駅前を出店する。
- (3)処理加工施設の増設。 → 川根本町では現在1カ所のみ。増設すれば加工量が増え、安くなる。

町長答弁要旨

SNSを活用してジビエの魅力を広めることが重要であることは認識しています。地域おこし協力隊員が情報発信を行っており、引き続き広報紙やホームページでも発信を続けます。町内の飲食店でジビエ料理が提供されており、今後の増加は地産地消や町の活性化につながると考えています。空き校舎の活用案も参考にします。処理加工施設の増設は迅速な処理を可能にしますが、人材育成や安定した捕獲量の確保が課題です。関係者と連携しながら進めていきます。

No.5

おおもり ひまり
大森 妃葵
光の森学園 9年生



質問 犬たちの憩いの場作り
のために

日本川根中学校を活用し、犬と飼い主の意識向上を図る「ワンちゃん目線第一のドックハウス」を提案します。具体的には、わんわんスクール、ハズバンダリートレーニング、グルーミング、ホテルの提供が考えられます。

町長答弁要旨

犬たちの憩いの場作りについて、日本川根中学校を候補地として提案されました。広い敷地を活かし、飼い主と犬が安心して利用できる施設の設計や安全対策が重要です。大森議員の提案は、犬に優しい環境づくりや飼い主との関係性を重視したもので、頂いた貴重な意見に基づき、今後の情報提供や指導に活用していきます。

No.6

なかむら はると
中村 陽瑠斗
光の森学園 9年生



質問 日本川根中学校のプー
ルでヤマメの養殖を

空き校舎のプールを活用し、ヤマメの養殖を行う提案です。中学のプールの循環ポンプを利用した釣り堀として、SNSやパンフレットで広報したり、地元スーパーや旅館に流通させたりすることで、観光資源として町の活性化を図ることができると考えます。

町長答弁要旨

日本川根中学校のプールを釣り堀やヤマメの養殖に活用する提案は、町民や観光客に新たなレクリエーションの場を提供し、地域交流や雇用創出に寄与することが期待されます。ヤマメの流通促進にはSNSや広報紙を活用し、事業者が育成日記を配信することが効果的です。施設整備が必要ですが、空き校舎の活用は有効だと思います。